

## 村松大兄におくる

庄司 惠雄

烏兔匆々とはよく言ったもので、村松さんがさっそうと新世界へ旅立たれてもう1年になろうとしている。自分もあのようにかっこよく辞めてみたいと思ったが、いまだ思うようにならない。仕事に切れ目が来ないのだ。嫌われ者世に憚るをこれ以上地で行かぬように、村松さんの爪の垢を煎じて飲むつもりである。

中村草田男の句を拙句の襖隠しにして大兄におくる。ますますのご活躍を祈りにして。

路あまたあり陋巷に東風低く 草田男

梅雨晴れ間汚れたるものみな日向に 惠雄